



又5
4862
6



又5
4862
6

正説
婦人
問書

本朝諸士百家記 六

本朝

本朝諸士百家記目錄

前集



伊勢

卷之六

下野ちもつけのたぐすや必敷かん矢雲あまのつとつちと物男かんらあまのつとつち利かん格あまのつとつち凡かん事あまのつとつち

同村ひとむら松まつ森もりとと巫まじ奇きゆゆとと難かたとのとのづづゆゆ事こと

越あち前ぜん國のくに者もの糸いと明あきら石いし糸いと野の原はらもものの事こと

舟ふね外ほか後ご智ち山やま多たくく良ら縁縁八はちググ多た
志し院いん定じやう月げつにに國くに遍へん海かい八はち十じゆ八はちヶヶ寺てらのの事こと



るやめくわやうといのづれぬが夫身の内服か
かよめが密い海とあひのちを忠とわいせんを
さん向坂たがひよひ切しといを毒を毒のひか
かやとゆりよこしとい二目か夫士のさる地を
りさるに情といけりく恨めといさうやめわ
あよひつとらんよるこの指とさうたがひよ忠義とい
まんといとありのしくわやまろく改よ様つゆかり
まこと双んたといらんらやうたぐ二を男ののら
とびつた不忠と和く忠義とまよりあやたよ
無昌の家かあつ一首のうの徳ありと

南条頼房の入る野原のつゆ

ひう 頼房の國府伴れに謀まよ南条頼房のつゆ

信長士の柳のつゆ付 朋家おほをた忠と付を夜
よ府中とき返目とれつと 柳丹羽後智山よ忠義中
川村とのふよ多き孫八とのふ氏兼上回十余丁と
おし 柳家の長と呼まてくうとくの者かを忠義母
方の後中あつゆ 柳はふよ忠とくく一あれわん
ひとと忠義一は忠義あははくぐわひつるが家
人と客とれどんまといと客と國果もといせんの
乃理のづれど家いやくと忠義の家よはれぬまが
我道はれとむとれはれ先むく誠とけりけり
極つる人の忠義あふの役たりわられば忠義のま
いとありく 朋家と付す不忠のつりさる短義の
いとあふせんといとゆよをめく 不詮をとい美徳の徳



日本書紀卷六

三月十七



